

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@mifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポビル階ケ谷九〇四 電話 03(33377)4649 FAX(03)3329915367  
振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 700円

6カ月前納制

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

「団結まつりと『沈まぬ太陽』」

花井 吉宅……………2

心のふるさと 旧向坂邸とりこわし

滝野 忠……………3

闘いには「絆」作りが必要……………

4

民主党の階級的基盤とゆくえ

伊勢 太郎……………5

オバマ来日

編集部……………8

—「自由の女神」のウソ—

10年春闘 「JC共闘」から「共闘連絡会議」へ……………

10

車掌二百人が消えた……………

11

—東京メトロ丸の内線ワンマン化—

民主党政権 過大な期待は禁物……………

山下 けいき……………13

民主党の試金石 一〇四七人問題……………

赤峰 正俊……………13

読者からのおたより……………

13

# 旬刊 社会通信

NO. 1060

二〇〇九年二月一五号

二〇〇九年二月一五号発行  
(毎月一日・一五日二回発行)

団結まつりと『沈まぬ太陽』

『白い巨塔』で医療界・私大医学部の内幕を暴き、『華麗なる一族』では新興金融界・鉄鋼業のブルジョアの愛憎、野望を活写し、『不毛地帯』では航空機・戦闘機を巡る商社と自衛隊との癒着や確執を描いた、社会派作家・山崎豊子氏の『沈まぬ太陽』が初めて映画化された。他の作品がおおむね国内を舞台としているのに対し、この作品はパキスタン、イラン、アメリカ、アフリカも舞台になっており、全五冊の長篇なので映画化が難しかったようだ。

三時間二〇分の労作は濃密で迫力十分だった。(三時間三〇分の内、一〇分間休憩。つまり休憩を取らないと疲れてしまうほどシリアスなシーンが続いているということだ)。なにしろ、JAL一二三便の墜落惨事が通奏低音のごとく全場面の底を流れているのだから。映画では日本航空が虚構化されてはいるが、私ならずとも、日航の内幕物として観ていただろう。しかも、私にはJR西日本・尼崎線の惨事がオーバーラップした。この映画を観た日の一日前に、私は第二三回団結まつり in 木場公園に参加していたから、なおさらのことだった。

手抜きのない各場面の内、特に心に残るところをいくつか挙げてみる。

①賃上げや労働条件改善の労使交渉。組合側がポーナス四・二ヶ月分を要求したのに対し、会社側はその半分強で譲らない。委員長(渡辺 謙主演、恩地 元)が席を立ち、スト決行の準備に移ろうとすると、結局会社側は組合側の要求を呑んだ。

②会社側(資本)は、このような強い組合を潰すために、あらゆる手練手管を弄すようになる。この背景には、五二〇名もの命を奪った大事故があり、安全性第一か、それとも儲け主義かの確執があり、前者を採る組合を排除しようとし、そしてそれは見事に奏効したのだった。(労使協調型に転向した日本の労組を象徴)

③恩地 元(はじめ)は資本・経営側に警戒・敵視され、長期の海外勤務に「左遷」され続けるが辛くも耐える。一方、親友だった、かつて副委員長の行天四郎(三浦友和出演)は常務にまで昇りつめるほどの出世指向者に豹変してしまう。この二人の生き方の違いこそが、このドラマに深みを与えている。

国労闘争団は「人らしく生きる」という選択をしたがゆえに二三年間の辛苦に耐えねばならなかったが、恩地 元は「矜持(ぎんじ)を失わない」のために「左遷の窮地」に耐えねばならなかった。

④山崎豊子氏や松本清張氏の作品のみならず、資本や国家という二大怪物について、総じていえることは、「人らしく矜持をもって普遍的・階級的に平たくいえば、愛・善・義・いのちという根源的な価値を求めて生きていこうとすると、この二大怪物は容赦なく襲いかかってくる。」

団結まつりでのステージから訴えられ告発された数々からでも、映画からでも、そのことが実感されるのである。恩地 元は、資本制日本と訣別して、太陽の沈まないような悠久のアフリカの大地へ回帰していったが、そのような心の回路をもたない人

々は、ではどうしたらよいのか？

二大怪物と対決することを改めて考えた二日間であった。

(花井 吉宅)

## 心のふるさと 旧向坂邸とりこわし

向坂塾入塾は四十年前の一九六九年だった。向坂邸では毎日のように古典を中心とした学習会がおこなわれており、入塾時には和氣誠さんを塾頭とした「共産党宣言」、「資本論」学習会に加わった。

学習会は大学時代のゼミ以上に厳格で、薄っぺらいけど内容豊かな「宣言」でいえば、週一回約一年をかけたやに記憶する。「資本論」もそれと同じで週一回、第一巻読了に数年を要し、終えると再び第一巻へであった。「宣言」、「資本論」は歴大な西洋の歴史はいうに及ばずギリシャ・ローマの古典、マルクス・エンゲルスの時代の古典が縦横無尽にちりばめられている。意味を解釈するのに精一杯の私たち。向坂先生は「監獄でふつうなら読まない本をいっぱい読んだ。聖書も」。昔を振り返りながら先生からしか学べない学問をさせてもらった。

入塾時は向坂邸から二〜三分の六畳一間に下宿、結婚後は一〜二分の「カサ・パシファイカ」とハイカラに名付けられた新築の長屋に越した。向坂先生から岩井章を紹介され、岩井さんのもとで約四年仕事をした。向坂先生、岩井さんはまさに人生の師であった。向坂先生からは本の読み方を教わった。先生の読書観は「書いてあるとおり読みなさい、そして考えることです」、「読書とは考えること」というものであったし、学習会は「修業の場」「勉強の成果を戦わせる場」とされていた。

一九七〇年代前後、先生はじつに多忙であった。もともと大事にされていたのが、全国で社会主義を学ぶ同志、若い友人との学習会であり、国労反マル生闘争下の実践であった。こんな学習会をとおして、国労本部で国労の書記、地域・現場の若者が集まった「国労資本論研究会」の幹事役を引き受けることになった。

先生は在京の時、かならず出席された、そして研究会終了後私たちのおしゃべりにつき合われた。その時、先生はコーヒーを注文され、コーヒーが器からあふれ出るくらいに砂糖を入れられた。甘いものが大好きでいらしたのだ。欠席された時には勉強会の前日、「どこまで進みましたか」と電話が来た。和氣さんによれば、「先生、学習会の前にはかならず本を手にしていらつしやる」とのことだった。このように、学習会のイロハを教わった。

先生との思い出は失敗談含めいっぱいある。岩井さんと仕事してた時、社会通信を始めて以降も出勤には先生宅の前を通る。先生いなきやいいなと考えていると、「滝野君、重役出勤だな」とやさしい眼で皮肉が飛んでくる。最大の失敗談は先生を案内して国労資本論研究会に向かうとき、先生おかまいなしに前へ前へ。「先生、電車来てますよ」と飛び乗ったとたんにドアが締めまり、「行き別れ」なんてこともありました。それからことあるたびに「あの時は…」ってからかわれ続けたものです。

さらに教訓豊かな思い出にこんなこともありました。先生の庭は「原始林」です。毛虫の仲間も勢いよく木々と共存しておりました。ある時、木々の間から一匹の毛虫

が糸を垂らして降りてきました。毛虫を見た女性が「キヤー」。それを見た先生、「なにを恐がってるんだ、人間の方がもつとこわい！」と一喝されたことなどです。先生宅の庭はひろい。「五百坪くらい」と先生はいわれ、先生宅、和氣さんの住居、書生の下宿先となっていた桂と名付けられた元茶室、そしてマルクス・エンゲルス・レニンのレリーフを刻んだ書庫、さらに先生の義弟の住居があった。

ゆき夫人逝去のあとしばらく後先生宅は無人の居となった。大原社会科学研究所がどうしているのだろうか、旧向坂邸を訪ねたのは今年の二月五日だった。その時の状況を「編集部だより」(第一〇四二号、〇九年二月一五日)にこうつづった。

「向坂邸は夫人の死去で大原社研の手に委ねられる。ゆき夫人の死から二年、先生が愛した『原始林』、『書庫』はどうなっているだろうか、西武新宿線・下井草駅に降りた。向坂邸から数十メートルの所に住まっていたのは一九七一年から八六年の約十五年間。往時、キャベツ畑、桑畑だった土地は一戸建て住宅が所狭しと並ぶ住宅街となっていた。

新青梅街道を渡ると、往時の姿をわずかに残すのは四谷商業高校だけだ。四谷商業沿いの小道を右に曲がる。そしてさらに次の小路を左に折れる。『原始林』そして『一本松』が見えた！ 旧向坂邸は往時の姿をそのままに残されてあった。閉じられていた扉を開け、原始林に歩を運んだ。庭はきれいに掃除され、先生が愛でた梅は満開、その根元の水仙は香りたかく咲き誇り、主を失った家とは感じさせなかった。」

書庫を見、旧向坂邸を一周し、かつて社会通信を発刊したころ決まって夜十一時のお茶の間での語らい、先生がその成功を我がことのように喜んでくれたこと、さらに先生が手術後の体力回復をめざし朝夕散歩された姿が今日のように思い浮かんだ。

私の青春は、旧向坂邸の想い出とともにある。だが、その向坂邸が十一月にとりこわされる。大原社研は老朽化を理由に、来年中に、海外研究者のための宿泊施設をつくりたいとしたからである。旧きよき東京がまた一つ消えていく。(滝野 忠)

## 闘いには「絆」作りが必要

酒井裁判の高裁判決で、裁判長の「主文、本件控訴を棄却する」との言葉、まさに一瞬の出来事でした。近年の裁判はこのような判決の言い渡しが多いようです。酒井裁判は〇五年九月一五日に兵庫尼崎局から大阪の大阪西局への配置転換が「不当労働行為である」とその不利益を問う裁判でした。当局は「人事上の措置」こちらは「組織弱体化攻撃」を主張し四年近くを闘ってきました。個人の思いを今回の闘いや今日まで関わってきた他の法廷闘争などを振り返って考えると、「個の意思と組織の在り様」が問われています。この様な観点から『酒井闘争を考える』と私の総括は、

- 一、正す会を組織し多くの人たちに参加していただいたことを評価しつつ、一方でその中心を担う人達の中でのより徹底した意思統一が必要だった。
- 二、組織の中のそれぞれの位置が不明確になり請け負い、もたれ合いが生じた。
- 三、改めて闘う資金作りの難しさを痛感した。
- 四、一定の拮据りを持った闘いであつたがもう一步の大衆的拮据りにはならなかった。(意識ある仲間の範囲)そこへのツールに壁がある。

- 五、受身の闘い(手段としての法廷闘争)から大衆レベルでの闘いへ舵を切る事が必要。(本場での闘いすなわち労働組合作り)
- 六、次への闘いへ前進するためには事務局会議および「正す会」役員会議、弁護士を含めた総会議案のための総括会議が必要。以上です。「郵政職場の不当労働行為を正す会通信」〇九年八月三日号。

(退職者組合 K・O)

## 民主党の階級的基盤とゆくえ

ある勉強会で①民主党の階級的基盤はどこか、②政治はどこに行くかとの質問があった。

民主党はだれに、どの階級に支持され三〇八もの議席を得たか。民主党に強い支持基盤・階級はない。連合が最大の支持基盤とされるが、今の連合にこれほどまでの勝利をもたらす力はない。率直には「落とす」力はあるが、「通す」力はない。民主にこれといった支持基盤がないから連合だけが目立って見えるのが実態だ。

### 民主党の実際

民主の党勢はどうか。じつに弱い、党員・サポーターは約二四万人。サポーターの年会費は二〇〇〇円、党費は六〇〇〇円にすぎず党費収入は年二億円強、機関紙等の事業費は約二・六億、他十五億円弱で、政党交付金が全収入一四二億一〇〇〇万円の八三・六%を占める。組織政党の体(てい)をなしていないのが実情だ。小沢一郎が新人議員に「国会活動よりドブ板に徹せよ」と号令をかける背景でもある。

議員数はどうか。他方自治体は平成の大合併で三三三二市町村から一七五一へとほぼ半減した。これにともない議員定数は六万五一九五から三万八三五六へ二万三三三九減った。民主は国会では衆参あわせ四〇八の巨大政党なのに地方議員数は県三七五、市町村四〇八、区議一一七、政令市一九四にすぎぬ。ちなみに大敗北した自民党は県一二一二、市町村約三万四〇〇〇(無所属ふくむ)、区議二一五、政令市二五二である。

自民と民主のもっとも大きな違いはなにか。財界との関係だ。財界は〇八年自動車、鉄鋼、電機、石油業界、そして商社を中心に自民党に三二億九〇〇〇万円献金した。それに対し民主へは個別企業で三菱重工五〇〇万、武田薬品一九〇万、三井物産・三井商事・住友商事二〇〇万、業界では自動車四三〇万、電機三〇〇万を中心に一億一五〇〇万円、これは前年比プラス三一%。財界が勝ち馬に乗ろうとする傾向をすでに示す。

その他の業主・業界団体の傾向も同じ。業主・業界団体は実利を求め政党に近づくから、自民にサヨナラし民主にコンニチワとなる。

民主はこのように大政党としての体をなしてはいない。「二大政党制」と小選挙区制度が、自民批判票を取り込むことを可能にし大勝ちした。民主はこれからの階級を母胎とし、どこへ行くのかとの疑問がわく理由がある。

### 政財界再編の仕掛人 民間政治臨調

これらの問題を考えるにあたって、まず考えられなければならないのは、民主党はだれがどのようにつくったか、政界再編を主導した勢力はだれであったかだ。

政界再編は財界と総評に反対する労働組合を政府が支援した日本生産性本部、そして政・財・官・労・学を主要構成者とした社会経済国民会議に主導された。二つの組織は自民党分裂(一九九三年)という「政治危機」克服を目的に、政治改革推進協議

会（民間政治臨調）を、さらには近衛文磨の孫細川護熙をかつぎ日本新党を立ち上げた。松下政経塾も一環だ。

時はソ連・東欧社会主義崩壊、総評自壊で「市場経済（資本主義）が計画経済（社会主義）に勝った」と大宣伝された、二十世紀以来の世界史の歴史的転換期にあった。民間政治臨調は金権腐敗政治を逆手にとり、保守二大政党制、ということは社会党がそうであったように資本主義を否定する政党を抹殺し、資本主義の枠内で政治のあり方を競い合う体制づくりをめざしたのだ。

小沢一郎、細川護熙は社会党をつぶし政界再編への条件をつくることで一致した。小選挙区制導入である。これを背後で誘導したのが政治改革推進協議会だった。小選挙区制で総選挙を勝ちぬける社会党議員は皆無にちかいはだれもがわかつていた。だが、社会党議員は「流れ」に飲み込まれ、解党の途を選択した。政界再編への第一幕だ。

### 「二大保守党」づくり 二一世紀臨調

第一幕の幕開けとともに民間政治臨調は新しい日本をつくる国民会議（二一世紀臨調）へと衣替えする。民間政治臨調は政・財・官・労・学の上層部をとりこんでいたのに、二一世紀臨調は、さらに政治家個人、マスコミ、知識人、地方政界首長、さらには得体のわからぬ市民運動の正体をはつきりさせるため画策されつくられたNPO法人をとりこんだ。

民間政治臨調、二一世紀臨調に流れる世界観はなにか。「戦後憲法体制の包括的見直し」、つまり憲法前文、九条改悪である。そのための国民運動の展開である。彼らが考える国民運動とはなにか。マスメディアを使い国民を洗脳し、「戦後憲法体制の包括的見直し」への世論をつくることだ。二大政党制をいうからには自民党政権にとって代わる新しい政党を育成、強化し政権党に仕立てあげる必要があった。その手法が「マニフェスト政治」だ。

資本主義の枠内で改革を競わせる。大企業におんぶにだっこの自民党であれ、大企業から少し脇にいる保守政党であれ、社会変革とは無縁であるから社会上層部の輩にとつては安心してみていられる。だから、二つの保守党をマニフェストで競わせる。○九年衆院選は二一世紀臨調にとつては第二幕の幕開けとなった。

### 政界再編劇 第三幕へ

二一世紀臨調はかつての昭和研究会をまねた国策研究会だ。手元に役員名簿がある。民主党は「脱官僚政治」を旗印に、二つの機関をつくった。国家戦略室そして行政刷新会議である。行政刷新会議十名の人事が決まった。鳩山を議長に、副議長に戦略相、刷新相、総務相、財務相の四人。民間からは京セラの稲盛、キッコーマンの茂木、元鳥取県知事の片山、元連合事務局長の草野という面々だ。民間出身者はすべて二一世紀臨調中心人物だ。戦略室もほぼ同様になると思われる。

第三幕はこれからだ。民主党政権は二一世紀臨調の戦略の一齣として誕生した。新しい動きがすでに始まった。小沢一郎が二一世紀臨調に「国会改革」について提言を

出すよう要請したことだ。この動きに、御用学者御厨貴東大教授は「注目しているのが『新しい日本をつくる国民会議（二一世紀臨調）』の動き。これまで自民党政権下では中立を保ってきた。しかし、先日小沢一郎民主党幹事長から国会改革案づくりの諮問を受けた。民主党系シンクタンクに性格が変わったと見ていい」（日経一〇月三〇日）と語っていることだ。

「戦後憲法体制の包括的見直し」への体制づくりが民主政権下でどう進展するか、最大の注目点である。

### 階級構成

民主は自民党批判票を一人占めすることで誕生した。驚天動地にあるのが民主と候補者たち。小沢一郎のようなベテラン政治家は「流れ」は長続きしないことを知っている。だから、①地方議員、国会議員に発破をかけ後援会をつくれ、②連合に日参し連携強化をはかると支持基盤づくりに邁進（まいしん）する。支持基盤はつくれるか。これからの社会・政治のゆくえに決定的な影響を与えるのが社会構造だ。ポイントは二つである。一つは階級構成、二つは文化・思想状況だ。

日本の人口は約一億三〇〇〇万人。就業者は六四〇〇万人。就業者の内訳は労働者五六〇〇万人、農民三三〇万人、漁民一五万人、自営業者三〇〇万人、インテリといわれる「知識」を生産手段とする階層約一〇〇万人。農民、インテリ階級の九〇％超は労働者階級、それも不安定雇用労働者群に属する。労働者階級にはこの他完全失業者として統計上から抹殺された三六〇万人、潜在失業者として統計に表されることない五〇〇万人が存在する。

労働者の階層化・格差化はいちじるしく進んだ。正社員三三六〇万人にたいし非正規社員とされる不安定雇用労働者は二二四〇万人、失業者三〇〇万、潜在失業者五〇〇万、他にニート、フリーター、障害者、主婦層、高齢者、家族従業者一〇〇〇万人というような産業予備軍がある。これらを正社員対不安定雇用労働者でみると、正社員三三六〇万人にたいし不安定雇用労働者群プラス完全・潜在失業者プラス産業予備軍は四〇〇〇万人を超える。

この階級構成から①農民党、中小企業党結成は不可能であること、②高齢化社会で年金党、老人党は可能であるが、たとえ結成されたとしてもいまある遺族会、軍恩連盟といった政治団体と同じように利権団体に転げ落ちるだろうこと、③インテリ階級には独自に政治団体をつくる能力はない。彼らの多くは「階級脱落者」であり、新しい社会をつくる能力は持ち合わせていない。こうみてくると鍵は人口の八〇％を労働者階級がどう動くか、彼らが「階級」を自覚するのか、それともブルジョワのシッポとなるかにかかわる。

### 民主党―二つの道

民主党の政策は自民党の独占本位―企業の成長―経済成長ではなく、国民本位―内需拡大、―生活向上―経済成長である。九月一六日、民主党が初閣議で決定した「内閣基本方針」は「目指すべきは、すべてを政府に依存する政府万能主義でも格差を生

み弱者を切り捨て、すべてを民間に委ねる市場原理主義でもない。『国民主権』『地域主権』『自立と共生』、この三つの理念の実現で、国、地方自治体、国民が役割を果たしながら社会構成していく」との考えから労働者・勤労者生活向上の政策を次から次へと打ち出している。

シャボンダマのようにふあふあした、得体の知れない抽象論だが、自民にくらべればいいことだ。労働者・勤労者の所得拡大↓内需拡大↓経済成長↓税收拡大の循環がつくり出されれば、民主党支持は労働者中心に強く大きく深くなって揺るぎないものとなる。

そこで問われるのが財源だ。労働者・国民大衆の生活保証の財源をだれからとるか。量は質に転化する。「弱い」人びとを支援するその額は一つひとつは国家予算全体からみればスズメの涙みたいなものだ。だがそれがより集まればものすごい額になる。われわれ一人ひとりの国民からは一十億、一兆円という単位は想像を絶する。しかし、政党助成金の原資の国民一人三百円が、一億三千万国民という単位では三九〇億円もの大金となるようにだ。財界、金持ちへの課税強化によるのか。ここにすべてがかかっている。今の民主党は予算案画定、執行の段階で真価が問われる。

### 右翼メディアは政党再編を画策

活字メディアから映像メディアへの転換は「知識人・インテリ」という階層を駆逐し、「有識者」タレント」にとって代えた。活字文化は「思想・世界観」「構想力」を旨とするのに、映像文化は「視聴率」を尺度とする。「タレント」に要求される資質は、考える前におしゃべりできるといふ得意技だけ。これでは「考える能力」が失われるだけだ。

「岩波文化」をつくった活字メディアはほぼ消えた。残っているのは極反動の出版社、新聞社、思想団体が発行する『文芸春秋』『正論』『オピニオン』『WILL』『ボイス』『中央公論』といった二一世紀臨調にも名を連ねる右翼さながらの輩だ。彼らは民主の政策をひねくりかえし、右へ誘導する。さらには垣根が外れた政治状況下、政治家に働きかけ政党再編を画策する。  
(伊勢 太郎)

## オバマ 来日 — 「自由の女神」のウソ —

J・F・Kの二の舞？ オバマ大統領が十一月十二日、日本にやってくる。オバマを迎えるのはオバマの権力基盤と同じ民主党。オバマは大統領として国家元首、最高軍司令官、行政府の長、民主党党首といったように権力を一手ににぎる。これにたいし、日本の民主党は鳩山民主党というより小沢民主党だ。

米国の民主党と共和党に世界観の違いはほとんどなく、共和党が米国最大の産業である農業資本家、金融資本家、産軍複合体、キリスト教者右派を支持基盤にしているに、民主党が一九三〇年代のルーズベルト連合に象徴される労働組合、マイナリティ（有色人種）、新興産業資本家を有力構成母体としているくらいのものだ。しかも、

アメリカはヨーロッパとくにイギリスの身分制社会から逃げだした移民が、宗主国イギリスに争(あらが)い「自由」をスローガンに建国された。身分制、階級的秩序から自由だったアメリカではイデオロギー的に自助自立―小さな政府―の精神が革新であり、政府にたよること―大きな政府―は保守となる。封建社会が数百年以上も根付き、その上に資本主義社会が発展したヨーロッパ、日本との根本的違いである。

この伝統はオバマ大統領に大きく重くのしかかっている。「社会福祉、金融機関等への政府の支援は社会主義」との考え方が、国民皆保険政策が個人の金持ちと大企業の独占物とされ医療保険改革が暗礁に乗り上げたかの状況を呈していること、歴大な不良債権を抱える金融機関への税金投入で金融不安を解消する政策は言葉だけに終わり、不良債権処理が金融恐慌をひき起こした投機屋にまかされていることだ。

外交政策にもそれはいえる。アメリカは東部諸州の独立から合衆国建設で東部から西部、スペイン領土、さらには中南米への植民政策―この過程で原住民・インディアンは殺りく、カリブ海・パナマ地峡―で領土を拡大し、今のアメリカの基礎をつくった。ちなみに今のパレスチナ問題の元をつくったのもイギリスと共同歩調をとりイスラエルを支援したアメリカだ。「自由の女神」を象徴するかのようになって喧伝(けんでん)されるJ・F・K(ジョン・F・ケネディー)は何をやったか。独立を達成したばかりのキューバ、そして独立戦争をたたかうベトナムへの侵略戦争だ。

ベトナム戦争敗北はアメリカの政治的・道徳的権威を失墜(しつづい)させた。

**オバマ支持率は五〇%へ** オバマが大統領になって約十ヶ月。オバマ政権をめぐる状況はどうか。

オバマは国民から四つの仕事を託された。第一は恐慌克服と経済再建、第二は戦争政策を終わらせアメリカの威光をとりもどすこと、第三はふえ続ける失業者を減らし国民生活を向上、安定させること、第四は以上の三つをつうじてアメリカの自信を回復させることだ。

第一。恐慌は克服でき経済は再建されたか。まだ道半ばだ。金融資本は不良債権を抱えたままだ。オバマは不良債権処理を金融資本の手にゆだねている。大金融資本は弱い金融資本を飲み込むことで当面の利益を確保しているだけだ。その片方では住宅をはじめとするローン支払い停止で地方の銀行が次から次へとつぶれてゆく。その数は十月末で一一五行にもなった。

アメリカ産業の「旗艦」自動車産業再生も進んでいない。クライスラーはイタリア自動車会社に売却された。GM(ゼネラルモーターズ)はヨーロッパ子会社売却に悪戦苦闘し、新生GMの姿はまだ見えていない。とりわけ深刻なのはアメリカ市場の停滞で〇九年度の新車販売は一千万台割れ必至。クライスラー、GMが息をついでいるのは中国市場の急膨脹の結果にすぎない。

第二。戦争は終結に近づいているか。アフガンの戦火は隣国パキスタンに飛び火している。軍は「今のままでは敗北必至」と四万人増派を総司令官オバマに求める。オバマは「少し考えさせてくれ」と判断を先延ばしする。

アフガンへの増派はイラクからアフガンに回すというものの、そのイラクでは一月の地方選挙を前に爆弾テロが相次いでいる。そしてパキスタンでの戦争拡大である。オバマは「テロ勢力をせん滅する」と公約した。公約は今、反古（ほご）と化そうとしている。

中東和平、核ない朝鮮半島をつくるを目的とする六ヶ国協議も行き詰まったまま。オバマはパレスチナのハマスに武装解除、そしてイスラエルに入植凍結を求める。ハマス、イスラエルともに応じない。朝鮮半島で北朝鮮は米国との平和条約、朝鮮半島から核兵器撤去を求める。しかし、オバマは応じない。六ヶ国協議空転の理由である。オバマは「核兵器ない世界」を語った。まず、朝鮮半島から実行してはどうか。

第三。失業はふえこそすれ減る傾向はない。失業率九・八%、失業者は一五〇〇万人を超えた。毎月三〇〜五〇万の職が失われていく。この職確保を目的としたのがGM、クライスラーへの税金投入（国有化）だったが、その効果はまったく見えない。アメリカからの報告は失業者の苦しい生活でみたまわっている。

第四。アメリカの威信、アメリカ国民の自信はまったく回復されていない。その結果がオバマ支持率の急降下でかつて七〇%を超えたのが五〇%にもなった。この数字は任期はじめでは歴代大統領最低である。先日、「帰還兵」を迎えるオバマの写真が配信された。ここにオバマの現状がある！

**焦点は普天間、米軍再編** オバマが十一月十二日、日本にやってくる。日本同盟、日米外交を演出するため米国高官がぞくぞく来日した。焦点は普天間基地移転と米軍再編。アメリカは太平洋、インド洋と接する北東アジアの侵攻基地として沖縄、日本を位置づける。

日本民主党は「沖縄県民の痛みを和らげる」ことを公約とする。米民主党と日民主党はどう調整するのか。オバマ来日の最大の焦点である。（編集部）

## 10年春闘 「JC共闘」から「共闘連絡会議」へ

連合参加組合員は中小労組が八〇%強。「JC集中決戦」方式は破たんした。JC大企業組合の要求はベアゼロ、定昇のみ。中小労組はもたん、というわけでこの数年パート・中小、さらには「JCにたよっていいは、組合、労組員の生活はもたん」「闘うことが必要」と有志共闘をつくり、連合に「反乱」。

連合はこれらへの小手先の対応に、〇九春闘で五つの「共闘連絡会」をつくり、矛盾の解消に大わらわとなった。JC傘下大労組は「あとは連合におまかせ」と身軽になった。

全労連は、一〇年国民春闘方針（第一次案）に、「連合は主要単産の中から『連合は政策・制度要求に徹し、賃金労働条件は産別自決を』との主張が再び強まり、JCがその共闘のあり方を見直して『JC春闘の終焉』を宣言する状況にある」と分析する。

## 車掌 二百人が消えた

―東京メトロ丸の内線ワンマン化―

○九年三月二八日に丸ノ内線（本線）はワンマン運転になりました。○四年に分岐線がワンマン運転化されてから、既設線への初めてのワンマン化導入になります。ワンマン運転への布石として「可動柵・ホームドア」の設置がありました。それが、それ以前に丸ノ内線では様々な設備投資がされていました。

### 職場を去っていく仲間達

「さあ行くか」「疲れたな」「やったー今日は何にもなかった」、詰め所での会話の大部分がこんな調子であったと記憶している。自分自身も勿論そんな状態であるし、相対式ホームが多いので特に左足が疲れた。

可動柵設置後は朝も夜も、残業での「折り返し援助」の連続であった。特に車掌区は、可動柵設置後は「見習養成」をしなくなったので慢性的な欠員状態が続いた。そして、平日非番は毎日が「折り返し援助」で残業となる。欠員なので毎週公休出勤になるが、一九時以降にはダイヤ乱れが発生して「折り返し援助」の更なる残業となる。平日非番は「折り返し援助」のための作業指定が七本あり、宿泊勤務点呼時に確認を取る。

可動柵設置後に職場を去っていった仲間が沢山います。中野では、再雇用で働いていた先輩連が全員退職してしまいました。また、ミスを連続して発生し「車掌は続けられない」と定年退職して、現在はアルバイトとして関連会社で働いている先輩も数名います。私のごく親しい友人も途中退職をしました。某駅で一週間に二回同じミスをしてしまい、「不安で夜も眠れない、仕事に自信をなくした」と話すようになり、「あと一年で定年だ、誰でも経験しているミスだから自分を責めるな・・・」との説得も空しく退職してしまいました。

また普段は、休憩所のテレビの前でつまらない冗談を言って仲間を笑わせていたベテランが突然出勤してこなくなりました。作業は、私以上に真面目に行う一つ後輩でしたがミスを発生したのが原因でした。

同期の仲間から「Tがテレビの前で変なことを言っている。相談に乗ってくれ」と頼まれ、彼と話をすると「家に泥棒が入り登記簿を盗まれて、家が名義変更されている」とか、「市役所に相談に行っても窓口で追い払われた」等々、意味不明な話を話すようになりました。彼の奥様は数年前から重度の「鬱病」であり、もしかしてミスが誘因となつたと医療センターに相談しに行ったら、やはり「鬱病」かもと言われて専門医に診て貰ったら同じ診断でした。残念ながら、彼も後に退職してしまいました。

「連動化」される前に、様々な理由を付けたにせよ「可動柵が原因」によって、M・C（運転士・車掌）で二〇名近い仲間が退職を余儀なくされました。

### 車掌事務室廃止

二〇〇九年三月二八日（土）始発からの実施である。荻窪駅B線に可動柵が初めて

設置されてから二年一ヶ月で、とうとうワンマン運転により車掌職を失うことになってしまった。この間は、精神的・肉体的に苦しめられた乗務員生活であった。「やれるものならやってみろ」と当初は思っていたが、既設線での丸ノ内線で「ワンマン運転」が思っていたより上手くいってしまった事を、一番喜んでかつ自信を得たのは当局である。

ワンマン運転に至るまでに二〇名以上の仲間が退職をして、二〇〇名の丸ノ内線車掌事務室が廃止されたのである。そしてホーム整理員でもある。以前、乗務員の「完全週休二日制」が導入されるときに、一人の運転士・車掌も研修所で養成していないのに「新木場電車区・新木場車掌区」が出来た経過がある。

しかし、今回の丸ノ内線の「ワンマン運転化」はメトロ線だけではなく、必ずや他鉄道へも波及していく合理化であると私は捉えている。可動柵を設置してから、有楽町線・日比谷線の車掌が定期教育の一環として見学に来た事があるが、連動化後はJR東日本も見学に来ていた。

「総人件費の削減」が至上命題であろうが、それを「車掌の生首を切る訳ではないから」では納得できる問題ではない。定年を数年後にして、丸ノ内線の倍以上の編成長のある職場に転勤することになった。車掌は大変である。また、丸ノ内線だけでやってきた車掌は様々な車両が走っている直通運転を実施している線への不安を抱いていた。直通で引き継ぐ時は「携帯箱を持って引き継ぐんだよ」と話をしたら、ビックリしていた仲間もいる。

日比谷線に行くことになったベテランに「5扉と3扉の切り替えを」と話をしたら、「俺はミスが多いから忘れそうだな」と失望していた同僚もいました。この車掌の指導員になる人がたまたま知っている人だったので、「見極めは本人が自信を持てるまで遅くしてくれ」と頼んだ次第です。

「次のワンマンは有楽町線だね」「銀座線はATO車の新車に変えるから、その次は銀座線かな」「いや、日比谷線は可動柵の墨入れをしているらしいよ」が、私の同僚達の会話でした。

### ワンマン化拡大必至

三月三〇日に新しい職場に転勤になりました。小石川・中野共に一四名ずつの「保安要員として」の仲間が五月上旬まで残っています。小石川の場合は運転士登用試験に合格している若い人が中心ですが、中野の場合はベテランが多く残されています。

三〇日には椿山荘にて「さよならパーティー」が実施されましたが、飲み食いの費用はメトロ持ちでの開催でした。その宴席で特筆すべき挨拶がありました。

鉄道本部長として挨拶した、副社長の「奥」の挨拶です。「鉄道本部長として挨拶します。私は、これからの東京メトロの車掌は『動力車操縦免許を持っている者が車掌を行う』と考えております」。どうか皆さんも新しい職場に行ってもチャレンジの精神を失わず頑張ってください」という挨拶です。

「動力車操縦免許」を有する車掌とは運転士の事ですから、当然他の既設線もいずれば「ワンマン運転にする」との発言です。

(メトロ労働者)

## 民主党政権 過大な期待は禁物

総選挙は自・公が惨敗、民主が大勝し、心配した社民、共産はなんとか現状を維持、辻元さん、服部さんも当選し、ホッとしています。

発足した鳩山政権によって無駄なダム計画や郵政民営化、後期高齢者医療制度、障害者自立支援法の見直しが進められるなら素直に評価したいと思います。

それでも民主は自民よりわずかにましな存在に過ぎず、失業、格差、貧困の改善は国民の監視と突き上げがなければ遅々として進まないのではないのでしょうか。

また民主のマニフェストには少数者、多様な意見を切り捨てる衆議院比例区の定数削減が盛り込まれており、実施されれば国会は民主と自民の占有率が高まり、福祉重視の社民、共産が排除される結果になるのは火を見るより明らかです。

高速料金無料化も鉄道やフェリーなど公共交通の衰退につながり認められないものです。過大な期待は持たず、いつでも政権を左右できるよう、私たち自身の力を強めることが何よりも大切だと考えています。(茨木市議 山下 けいき)

## 民主党の試金石 一〇四七人問題

民主党政権ができた今、「JR採用差別事件」と、どう向き合うのか、が注目されます。「国鉄分割民営化」に伴う日本社会の構造変化を、民主党がどう評価するのかが問われます。現在の「民営化絶対論」が、「格差社会」の根本にあり、一〇七人の命を奪った尼崎事故に象徴されます。「競争に脱落した者は貧しく生きろ!」「利便性を求める者は安全を語るな!」という日本社会の現実を民主党はどうするのでしょいか??

政権に就く前から民主党に対して、「JR採用差別事件」の政治解決を依頼してきた闘争当事者たちに対して、民主党が出す答えは、この政党の体質をはつきりと示すこととなります。「労使協調」を絶対化した「連合」を最大のスポンサーにしている民主党と国鉄闘争が交わり出される答えは、後世にどんなものを残すのでしょうか? (国労大分闘争団 赤峰 正俊)

## ◇ 読者からのおたより ◇

滝野さんへ 「社会通信」を引用させていただきました。みんながどのように受け止めるか。感想などをまた報告します。(岡山・H)

編集部より ご利用に感謝。ぜひご報告を。

こんにちはに出会いました 最近なるべく時間を作って本を読むようにしています。出会う本、出会う本が素晴らしいものばかりで、何冊かを紹介します。「十六歳の教科書Ⅰ・Ⅱ」この二冊は教科書に載っていないことを教えてくださいました。そして、本当に学習してみたいと思うきっかけを作ってくれます。「拝啓十五の君へ」は、アンジェラ・アキさんの本です。五月にはアンジェラさんの福山でのコンサートに行つて、元気をいっぱいもらいました。この本の帯には『悩みにつづかつてはすべての人に贈ります』とあります。自分の原点を探すために読んでほしいと思います。

まだまだ他の本もお薦めしたいのですが、紙面の都合でこれにて終了。我が家の『のびる文庫』へどうぞお越しください。(福山市議・西本 章)

編集部より 私のおすすめは『世界がキューバ医療を手本にするわけ』『世界がキューバの高度力に注目するわけ』いずれも筑地書館、吉田太郎著。

カンパです お元気ででしょうか。お体に気をつけ、ご指導下さい。購読料一年分送金します。残額は少額ですが切手代へカンパとします。(鹿児島・K)

編集部より カンパに感謝です。原稿送っていただけると嬉しい。

古典学習会 これまでの討論不足、呼びかけ不足で十月から一部減となりました。団結づくりは難しい課題ですが、私たちの運動の一番の欠点だと思えます。五年間つづいている古典学習会(現在は『空想より科学』にさらに力を入れたいと思います。(新潟・M)

編集部より 『空想から科学』タイムリーな古典です。第三章の「ブルジョアの社会主義」などは旧いと考えていましたが、民主党の政策をみていますと、これが復活させられたかのようです。組合か会社か 私の駅では「サービス・運転勉強会」が月二回おこなわれています。助役が一人ひとり出欠をとり、「なぜ欠席なのか」と聞かれます。「組合活動で出れない」というと、「それではダメだ」と言ってきます。「組合より会社だ」と言っている。私はJRに怒りをもっているのでも

つぱり言えるが。(埼玉・H)

編集部より この職場も同じ、過日、中国地方の国公に務める読者から、「申告シート等、目標管理がたいへん強くなっている。組合(全労連系)は当局のいうがまま。どこか開つている組合、個人はないか」とのおたより。第一〇五八号の「ヤミ専」にあるのが残念ながら今の状況。一人ひとりががんばり仲間に「人間、そして労働者らしさ」を訴えていく時期なのですね。

誌代 おくれて申しわけありません。十一月一日号で三三年めを迎えました。ご愛読に編集部より ご送金ありがとうございます。 (千葉・A)

概 解雇撤回 不屈に生きる／鳩山で 九条改正 鳩が鳴く 許してならじ 広島・長崎 (札幌・M)

編集部より おたよりに感謝です。あなたのことはいつも友人と話題になります。国会議員 民主党に新国会議員が大量に誕生。国会議員とはどんな階層かと歳費を調べてみました。年三四二九万四八〇円との数字が出てきました。内訳は月収百三〇万一千円(年収一五六一万二千元、ボーナス六三五万四四八〇円、文書通信交通滞在費月百万円(年間千二百万円)。その他に優遇措置が①公設秘書三人分二千二百五百万円、②JR全線無料(グリーン車)、③航空機は月四往復無料(研修・調査名目で国内外)、④家賃(議員宿舎) 十万円以下(社会通念上相場の五分の一程度)と。こんな「特権」の上にあぐらかいては庶民のこと忘れちゃうよね。(はく)

編集部より この稿を一人ごちているのは「我が輩」の猫ならぬ、犬の「はく」君。彼の飼い主は「くしゃみやみ先生」ならぬ、首切り反対をたたかう戦士です。

再雇用 駅ビルで警備員として四年めに。警備は四名、全員が六〇歳以上です。勤務時間は九時から翌日九時まで二四時間拘束(実働時間)で一人勤務です。休憩二時間(十二時～一三時、十八時～十九時)。仮眠六時間です。六時三〇分、荷捌場のシャッターを開けると納品業者、ゴミ収集業者、お店の店長、従業員や清掃のおばちゃんが待つてましたとばかり入ってくる。各お店とも売上げにより会社から指導、注意され、駅ビルからは月一回好調・不調、今後の対策を文書で提出が義務づけられている。駅ビルの営業は昼も夜も働いている労働者でなりたっている。働く者が主人公です。(東京三多摩・S)

編集部より 区のシルバーセンターで働くある仲間が言っていました。「みんな働かせてもらっているだけで満足してる。仲間つくるたいへん」と。やはり同じ状況ですか。

出張 ○九年十二月から一〇年二月は出張のため休みとして、その分さきに伸ばしてください。以上お願いします。(群馬・K)

編集部より 了解です。单身なんでしょうからお身体大事に。自宅に帰ると、そこには： 九月二六日、組合員が家に帰ると「配達証明郵便」が届いていました。その中身は、「解雇予告通知書」でした。前日の従業員説明会で、専務が「解雇通知は従業員の自宅に郵送した」と説明していました。それが届いていたのです。開封して読んでみると、そこには「今後、下記事由により、平成二二年九月三十日を以って解雇いたします。」と、一行だけ書かれています。理由については「事業の廃止の為」と、たった七文字書かれているだけです。それ

だけです。(全港湾神戸支部・姫路伊藤分会)

だけです。